第５回総合計画審議会（共創チャレンジ３部会）

― 議事録（要旨）―

■日時：令和７年１月 16 日（木）10：05～
■場所：糸島市役所　会議室 401

（出席委員）
三谷部会長、外山委員、能本委員、財津委員

（事務局）糸島市
企画秘書課　吉村課長、野口主任

【議事概要】

■　**部会**
３　協議事項
➢　**共創チャレンジ３　地域農業環境維持の仕組みづくり**

● 事務局素案について、事務局から説明
■：委員、○　事務局

・ 進行を三谷部会長へ
以下、三谷部会長による議事進行

■　三谷部会長
資料１－３のＡ現状と課題については、いかがか。この記載でいいのではないか。
また、Ｃ理想について、理想像としていかがか。

■　外山委員
私の住む地域では、河川の草刈等は地域で協力して作業して、参加されない方は不足金を取るという形で維持管理している。新しい移住者が多く、維持できてないところが、事務局素案にある課題の地域だと思う。それを並行して一緒に論じると、視点もずれてくるのではないか。地域で維持管理できるところに対してはどんなフォローができるのかということも対策として必要だと思う。糸島全部を一色単に議論するのは無理やりなのではないかという印象を受けた。

■　三谷部会長
目的に農業と書いているため、農業だけに偏っているのではないか。糸島の豊かな自然環境、保全のために、農業という手法を使って取組むという話にならないといけないような感じがする。そうし

ないと市民の方から参加しようという気にならないのではないか。理想に、「農業に関わりのない市民が」と書かれると、違和感がある。先に、「市の豊かな自然や景観を保全するために」とするのでよいのではないか。農業だけではなく、様々な市民が地域の伝統や豊かな自然を守るために、農業活動や協働する、という文章に書き換えたほうがいいと思う。

■　能本委員

そちらの方がいいと思う。農家のためにやるような感じに見える。そこも重要ではあるが、幅広い市民の関心を得るためには、「地域のために」といった書き方がいい。

○　事務局

現状として、集落の自然環境の保全を支えているのがほとんど農業者である。事務局でそこをスタートとしたため、農業中心の記載になっている。もともとの目的は市の自然環境の保全であるが、言葉として農業がでている。部会として、農業の人たちが重要なポイントではあるが、自然環境、生活環境をみんなで守っていく、といった記載がよいのではないかといった意見であれば、記載方法を検討する。

■　三谷部会長

それと、地域の発展も必要である。

○　事務局

理想を修正するのであれば、テーマも地域農業を地域環境に修正して、農業の記載を削除してもいいかもしれない。

■　三谷部会長

テーマとしての書き方としては、例えば農業を通して地域の自然環境、景観の保全、地域の活性化のための仕組みづくり、そういう文言に変更した方がいいかもしれない。農業は残していいと思う。

○　事務局

はい。重要な要素である。農業者が草刈りなどの作業をしなくなれば、自然環境の維持が困難になる。

各校区懇談会での意見で一番出てくるのは、山つきの地域は水路が維持できない、河川の草刈ができない、街部では道路の草刈を環境美化でするが、草刈り機を使えない、参加者が高齢化して、今後の活動が困難になるといった意見である。

■　能本委員

糸島の場合は、地域の保全・維持と、農業は切っても切り離せないということを、コラムのような形で書き込めば、施策の文言には入らなくても、どういう風な背景で共創チャレンジとして設定したかがわかると思う。今は農家の方々が支えているという現実があると記載することで、農家の方々へ

の説明にもなる上、予防にもいい。市民の方にはわからないつながりもある。

■　三谷部会長

理想の部分については、糸島は地域の発展や自然環境の保全を、農業を通して取り組んでいくという理想に修正をお願いする。

○　事務局

能本委員が言われたコラムについても、計画書への掲載を検討する。

■　能本委員

特に農業と環境維持について記載していただきたい。

○　事務局

その部分も整理して検討する。

■　三谷部会長

共創チャレンジすべてにコラムを入れるといいと思う。

■　三谷部会長

アクションアイデアにある「地域」という言葉について、糸島市の中にある集落や地域のイメージか、それとも糸島市全体という意味か、教えていただきたい。

○　事務局

この「地域」については、集落単位で様々な活動をしていることから、「集落」のイメージである。

■　外山委員

自治会ではないのか。

○　事務局

自治会と同様である。

■　三谷部会長

１点目と３点目の「共同」について、１点目は「共同」であると思うが、３点目は、理想に書かれている「協働」ではないか。１点目は共に同じ活動、３点目は協力して働く活動というイメージを受けた。

○　事務局

趣旨的には、三谷部会長が言われた通り、協力して取組むことであるため「協働」とする。

■　三谷部会長

援農という言葉が出てくるが、いかがか。

○　事務局

あえて「援農」という言葉を使わなくても、取り組んでいくことは、活動の仕方を学ぶ場を作る、地域の受け入れ体制を作る、活動する人たちを作るという３点であり、こだわる必要はない。

■　三谷部会長

「農業をとおした地域づくり」といった言葉で表現できないか。「援農」という言葉は、強い感じがする。市民が受け入れやすい言葉がいいと思う。

■　外山委員

農業をあまり強く言いすぎると、助けてあげているといった感覚になる市民の方が多いと思う。地域の環境を維持しているのは農業があってこそという前提がわかったらいい。

■　三谷部会長

強みである農業を通して地域を活性化していく、というイメージになるような言葉がいい。援農は、短い言葉でインパクトはあるものの強すぎる感じがする。

■　能本委員

事務局素案では、環境維持しかない。本来農業とは、野菜作り等を実際する方が割合として強い。地域保全のようなものを、農業に代替しているためニュアンスが違ってくる。先ほど三谷部会長がおっしゃったように、「農業をとおした地域づくり」とか、「市民との関わりづくり」といった少し概念が上の方をまずは出して、市民の中から「援農」という言葉が出てきたのであれば、修正していく形にした方が、今の段階ではいいと感じた。

■　財津委員

農業という記載はあるものの、取組は野菜づくりではないため、援農とすると農業そのものを支援するようなイメージに見える。誤解を生む可能性がある上に、農業者の方々も自分たちで取組からいいとなるかもしれない。

■　外山委員

農業の支援ではなく、事業自体が自治会の支援になってくると思う。主旨がずれてきているような感じがしている。農家のためだけの川ではない。

■　三谷部会長

部会に農業関係者がいないため、様々な意見が出たということにする。

○　事務局

いただいた意見を踏まえて、市内部の農業政策関係課と協議の上、例えばコラム的に農業は環境維持に重要な役割を果たしているということを記載して、実際の取組みは、そこまで農業を支援するということを出さないというのは、話としてできるため、部会の意見としていただきたい。

■　外山委員

アクションアイデアは、全国でこの課題を抱えていると思う。糸島はいい方だと思うが取組の成功事例は、市で把握されているか。

○　事務局

３点目の地域をまたいだ共同活動を支援する協力隊づくりについては、隣接する複数の市町村が連携する事例があり、兵庫県あたりで実際に取り組まれていることを把握している。

■　外山委員

神社の話になるが、神社でもお祭り協力隊を結成し、その隊員が祭典を行わないときに派遣されるという取り組みを進めている地域もあり、少し似たような取り組みなのかなと思う。

■　財津委員

農業を通じて観光もできると思うが、そういう考え方はないのか。

■　三谷部会長

市民の方々の活動の場、健康づくり、観光と農業と結びつけていくことは大事である。

■　財津委員

例えば、直売所でいちご狩り体験を提供するなど、外部の人を農業や地域に取り入れて活動させる取り組みも多く見られる。これが地域づくりの一環かは分からないが、そうした観光も一つの形と言えるのではないか。

○　事務局

吉井上地区の農家の方は、福岡市在住の人等を募集して、単純な収穫体験だけではなく、１年間をかけて作業体験を続けて、活動を通じながら集落の環境維持にも、将来的に手伝ってもらおうというような取り組みを開始している。単純に、観光だけではなくそこで体験することを加えた取組みから、協力隊づくりが展開できたらと思う。

■　三谷部会長

１点目と２点目の「地域」は自治会や集落の意味だが、３点目の「地域」違う意味なのではないか。

■　能本委員

市民の方々が自分の地域で関わるということと、全く地域にしがらみがなく、外部からくる人たちの思いや目的は違うと思う。糸島の今の状況で知名度があれば、全く地域のしがらみがなく体験してみたい、糸島で農業体験してみました、というキャッチフレーズみたいなものがあるといいのではないか。関わる人達を受け入れるといった意味では、市民や地域の人たちがきちんと関わることと、外部の人たちが関わることはやり方が違うし受け入れ体制も違う。そこを分けて考えるのはいかがか。

■　三谷部会長

１点目のアクションアイデアで草刈りや水路清掃などの取組はいいと思うが、実際に作物を育てて、収穫して渡すような取組も欲しいと思った。もう１つアクションアイデアを加えてもいいのかもしれない。

■　能本委員

イベント観光にする取組はどうか。間伐の体験では、１人参加費３万円で多くの人が作業のために集まる。糸島で開催すれば、知名度のアドバンテージがすごくあるため、知名度も活用して、新しいことを企画するのはどうか。

■　三谷部会長

「糸島の場を活用した市民と外部との人との交流の場づくり」のような記載にして、先ほどのご意見のように農業体験等の取組を１つ追加したらどうか。そうすると、先ほど言われた観光も入ってくる。

○　事務局

追加を検討する。

■　能本委員

糸島は場所がいいため、飛行機に乗っても来てもらえるのではないか。東京の人もターゲットとなり得る。他の中山間地域でそれは狙えないため、場所や魅力を上げて、外部の人たちを取り入れるような視点を市民の方にアイデアとして考えてもらうといい。

■　三谷部会長

糸島は滞留人口が少なく、通過点となっている。福岡市が近いため、通過点の場をうまく利用して何かやるようなこと考えるのがいいと思う。

■　能本委員

草刈等の取組に、価値づけをするといい。体験が重要という人と、社会貢献をしたい人がいる。

■　三谷部会長

そうすることでリピーターも増えて、草刈の必要性も、その場で教えることができる。

■　外山委員

最近、小中学校のＰＴＡをなくそうという動きが出てきている。しかし、何でも外部に委託しすぎると、地域で長年維持してきたものが否定されてしまう可能性がある。地域での取り組みを維持し、プラスの形で進めていくことが重要であり、これを失うと、地域が本当に困難な状況に陥りかねないため、慎重に言葉を選んでいただきたい。現状、地域で行われている活動がとてもありがたいものであり、それを維持していくことが、地域社会を支える基本であることを再認識していただきたい。

■　能本委員

今、地域の取組が維持できているところと、地域のリーダーがおらず地域の取組が放置されているところの二分化があり、すごく重要な視点だと思う。維持できているところは、維持するためにどうするかという視点で、新しい取組が必要なところは外部の人材を入れる等、視点をわけて維持対策を考えることが必要である。外山委員のご意見のとおり、１歩間違うと頑張っている人たちを否定するように受け取られる可能性がある。

■　三谷部会長

地域の公民館を活用して、地域の人たちがお昼ご飯を提供し、おもてなしをするような活動があれば、地域のつながりが深まり、交流も活発になるのではないか。

○　事務局

いただいたご意見は、後期基本計画が始まった際にステークホルダーの人たちに伝えて、検討していただくことになる。

■　三谷部会長

「糸島を活用した交流の場づくり」と、「地域が中心となった活動として、交流の場を作る」という文言を入れていただきたい。

このアクションアイデアが一時的なものになりかねない心配がある。労働力人口は間違いなく減るため、ＩＴ化は外せない。ただ、自動草刈り機は平地では効率よく活用できるものの、山つきの場所では機能しづらい。農家はこれに苦労する。新田開発は広い平らなとこだと、ＩＴ化はうまくいくものの、山つきの個人が所有しているところは難しい。朝倉の災害後の話で、農地が流れた後に元々個人で所有していたところを、共同で平たい農地としてつくり直し、市外から援農を入れていく活動に変えようとしている。そういったことに取組まない限り、農業に従事をしていこうという若者たちが入ってくることはない。そこに対しては何か手を打たないといけないのではいかということが懸念事

項としてある。

○　事務局

糸島は、平地のほ場整備は進んでいる。

■　三谷部会長

困っているのは山付きの方。平地のところはうまくいっていると思う。

労働力を確保するための促進をアクションアイデアとして考えていただきたい。機械化やＩＴ化もいいと思う。例えば、ＩＴ化したとしても、労働力人口は10年後には少なくなってくる。若い人たちが参入できるような仕組みづくりを入れて欲しい。

○　事務局

ご意見を伺い、ステークホルダーに都市部の人たちも入れた方がいいと感じた。実際そういう人たちに来ていただき、ゼロベースで話し合うときに、糸島の人たちはそう考えたのかもしれないが、実際来る人は違う意見かもしれない。実際に来る人の意見もいただいた方が本当に来てもらえる取り組みになる。

■　三谷部会長

まとめさせていただく。テーマ名は変えるか。

○　事務局

検討するようなご意見であったら、担当課と検討する。

■　三谷部会長

理想について、地域の環境保全や地域活性化、そういうことを目的に入れていただきたい。アクションアイデアとしては、農業をとおした地域づくりとする。項目について、１２３という項目はいい。その他に、糸島の場を活用した交流の場づくりと、若い人たちが減少することは間違いないため、そういう人たちの参入を促すような仕組みづくりを追加していただきたい。

■　外山委員

地域が中心の、という文言はすごくいいと思う。

■　三谷部会長

糸島の場を活用した交流の場づくりは、必ず地域が中心となった活動として進めていただきたい。関係者が参加されていないため、当事者の方々にも再度必ず伺って検討していただきたい。

（共創チャレンジ３部会　終了）